

走ることのうんちく

サッカー、ラグビーなど多くのスポーツが生まれたのがイギリスですが、陸上競技もイギリスから生まれました。今回は「走る」ことについてのお話です。

(1) 町の中の競走から始まった

今から約 350 年前、イギリス人でとてもいねいに日記を書いていたピープズという人がいました。その日記の中には、イギリス北部のアイランド人と、王様の親せきにつかえる「走りじまん」の人との競走のことが書かれています。こうした、競走はイギリスだけでなく、世界のあちこちで、いつも行われていたようです。

この競走に出ていた人は、大きな屋しきにつかえて、手紙を運ぶ仕事をしていた足の速い人、町の走り自まんの人たちでした。

試合のやり方は、2 人だけで行われるものや、何十人もの大ぜいの人が走って、順番をつけるものなど、さまざまなものがありました。しかし、どの競走も、多くの見物人がやってきて、「かけごと」をするのがいつものならわしでした。

(2) 歩く競走

この時代に出された記録によると、歩く競走では、1 日に 40 マイル (64.4 km) ずつを、朝 6 時から夕方 6 時まで、6 日間歩いた記録や、402 マイル (674 km) を 5 日 18 時間で歩いたという記録も残っています。この距離は、日本で言えば、東京から姫路までの距離になります。

1890 年、スコットランドのバークレーという軍人が、1 時間に 1 マイル (1609m) ずつ歩いて、15 分休けいするやり方で、昼、夜の区別なく 42 日間、1000 回歩き続け、当時としては、とほうもなく多くの賞金をもらったという記録もあります。当時は、長いきよりを走ったり、歩いたりするのですが、ほとんどが、かけや金もうけのためにしたのでした。



42 日間歩いた
バークレー

(3) 学生の競技会のはじまり

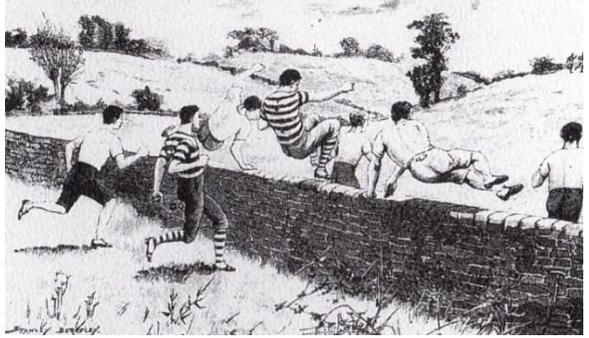
1838 年 4 月、イギリスのバーミンガム大学、医学部の学生六人が、学校の外の草原に行き、1 マイル (約 1609m) の障害物競走をしました。学生たちは、はでな服を着て、道をのぼりくだりし、牧場の柵をとびこしながら走りました。それまで、学生が、学校の外でこのような競走をしたことがなかったので、この競走のことが新聞にのると、町の大きなうわさとなりました。

そのことがあってからは、学生たちは、イギリス各地で、こうした競走をやりはじめるように

↓ 学生たちによる障害物競走

なったのです。とくに、こうしたしょうがい物競走は、馬にのって森や林、牧場を走るのと同じ気持ちになれたので、学生自身もたいへん喜んで走ったのです。

その後、この学生の競走は、学校の外だけでなく、しだいに学校のグラウンドでも行われるようになりました。短距離走や走り幅跳びのほかに、それまでにいなかのお祭りなどで



おこなっていた、砲丸投げ、ハンマー投げなどの種目もくわえられました。また、ハードルは、グラウンドの外を走りながら、牧場の柵をとびこえていたときのようすを、グラウンドの中でやろうとして、学生たちが始めたものだったのです。

(4) 世界で初めての陸上競技大会

イギリスの各地の学校ではじまった大会は、学生や生徒の人気を集めただけでなく、おおくの市民の人気を集めました。このころになると、イギリスでは、鉄道があちこちで開通し、町と町のいききが楽ではよくなり、学校と学校の連絡もつくようになりました。それまでは学校の中だけでやっていた競走や競技会も、おたがいに試合をしてみようという話も進み、あちこちの学校同士で対抗戦がはじまりました。

1864年3月5日、オックスフォードのクライストチャーチ校のグラウンドで、オックスフォード大学とケンブリッジ大学の第1回の対抗戦が始まったのです。この大会は、今もなお、続けられています。

この大会では、100ヤード走、440ヤード走、1マイル走、2マイル障害走、120ヤードハードル、200ヤードハードル、走り幅跳び、走り高跳びの8種目の競技が行われました。

その後、棒高跳び、砲丸投げやハンマー投げなどがつけくわえられていきましたが、このときのやり方は、今もオリンピックで行われているものとほぼ同じで、今も正確に世界の各国にひきつがれているのです。

その2年後、この2つの大学を卒業した人たちが中心となって、クラブを作り、グラウンドもつくって、大会をはじめます。町の人々もまたこれに参加し、陸上競技は、このころさかんになったサッカーやラグビーなどとともに人々の人気種目となったのでした。



「二大学対抗」→
2マイル・レース (1869年)